

第10回講談社ブック大賞推薦作品

主催 講談社社友会

1	申請日	学芸書 講談放浪記	発売日	2023/7/13 神田伯山
	<p>「今、最もチケットが取れない講師」と言われる六代目神田伯山さんが、名作講談の舞台を訪ね、その魅力を解説する『講談放浪記』を刊行した。私も伯山さんの講談は何度も聴きに行ったことがあるが、一番の売れっ子講師が、二六〇ページの単行本をよくぞ書いたものだと感心した。</p> <p>第一部は「講談の舞台を訪ねる」。一種の聖地巡礼のような趣があり、その題材について伯山さんがその現場に足を運び、例えば『赤穂義士伝』泉岳寺、『出世の春駒』愛宕神社など。講談を読むように熱を込めて語る。読者は字を読むのだが、伯山さんの講談を聴いているような気分させてくれる。その口調を聴いていると、な～るほどそういうことだったのかと納得させられることが多い。語りを補強する人名、年号、など解説も含めて詳しいので、実に頭に入りやすい、勉強になる。また、講談を聴きに行こうという気持ちにさせてくれる。</p> <p>この編集者は、二ツ目の神田松之丞の時代に『講談えほん』（全8巻）を提案して以来の縁で、出来上がったようだ。作り方にも編集者の工夫があるようだ。実際には、伯山さんのお話を九龍ジョーさんが聞き書きをしていく方式でこの本は成り立っています。よくよく考えたら、昔の方式とよく似ています。明治四十四年（1911）に創刊された「講談倶楽部」は、有名講師に速記者が張り付き、文字化して原稿から本となって売られました。</p> <p>その方式のまさに現代に活かされたのも面白かったです。</p> <p>本としての出来はとても良いと思います。ブック大賞に推薦したい。</p>			
2	申請日	ブルーバックス 生命の大進化 40億年史 生命はいかに誕生し、多様化したのか 3巻	発売日	22/6/20 3/20 土屋健 群馬県立博物館監修
	<p>今回の一押し作品◎2重丸。学者ではなく、サイエンスライターによる「カラー図説」だから、実に読みやすい。著者と編集者は「図鑑MOVE」シリーズからの「おつきあい」のようで、イラストレーターを含め、息の合った執筆・編集作業ぶりがうかがえる。</p>			
3	申請日	学芸書 続 窓際のトットちゃん	発売日	2023/10/3 黒柳徹子
	<p>やっぱりこの本は読んでよかった。大ベストセラー「窓際のトットちゃん」の続編が42年後に刊行されたことを喜びたい。黒柳さんがさらにご活躍されることを願います。この本がどのように読まれているのか。社友会で話し合うのも大切ではないだろうか。戦争中の思い出は貴重な経験で、今の世界と日本に重ね合わせて読んだ。大ベストセラーにはそれなりの大きな意味がある。</p>			
4	申請日	文芸書 伝言	発売日	2023/8/21 中脇初枝
	<p>中脇初枝「伝言」は4年ぶりの新作。彼女は昭和49年生まれ。戦争を知らない世代だが、彼女の描く戦争小説にはいつも心揺さぶられる。この作品は敗戦間近かの満州国で勤労働員され、風船爆弾、731部隊の細菌戦にかかわった少女の物語だ。満州国とはなんであったのか。忘れられていった国であったこととさまざまなドラマに胸がえぐられる。戦争と平和。さまざまな災害に遭遇している現代に照応している読み応えのある小説。本書はブック大賞を受賞した「世界の果ての子供たち」の続編になっている。ご一読ください。</p>			
5	申請日	講談社現代新書 老いと創造 朦朧人生相談	発売日	2023/11/20 横尾忠則
	<p>横尾忠則氏は1936年生まれ。87歳。驚異的、旺盛な創造が続いている。私は朝日新聞の「書評」が好きで内容、レイアウトとも唯一無二でいつも刺激を受けている。本書に展開されている人生相談も自在な語り口で、これも唯一無二の内容になっている。横尾忠則氏のいることがどんなに貴重なことなのか。本書にはそれぞれの人生相談に対応した横尾氏の作品が掲載されていて画文集にもなっている。作品の解説、平林恵氏の横尾氏への深い理解に脱帽した。この現代新書は優れた美術書である。</p>			
6	申請日	講談社現代新書 人はどう老いるのか	発売日	2023/11/20 久坂部羊
	<p>著者は医者であり作家。高齢者医療に長く携わっている。この手の本はたくさん出ているが、事例が多く参考になった。認知症の患者の多様な姿。それは他人ごとではない。医者が知っている「楽な老い方」「苦しむ老い方」は一読の価値がある。健康寿命には限界がある。その時が来たら、従容として受け入れたいものだった。</p>			

7	申請日	学芸書	発売日	2023/10/24
	怪物に出会った日 井上尚弥と闘うということ		落合正範	
「日本ボクシング史上最高傑作」と言われるモンスター井上尚弥を描いた438頁のスポーツノンフィクション。井上と闘い敗れた10人のボクサーに取材した労作です。井上と闘ったものはすべてその強さに絶望する「が、同時に驚嘆し、やがて立ち上がり、また、戦っていくという。敗者を輝かせる、それが本当のチャンピオンなのだ。著者の取材はメキシコ、アルゼンチン、オーストラリア、フィリピンにおよび、まさに世界を歩いて井上尚弥の力、人間の魅力を描いている。本書の結び「それぞれが前を向き、今を生きている」読後、清冽な風が胸の中を吹いた。				
8	2024/1/24	単行本	発売日	2023/8/7
	十戒		著者名	夕木春央
『方舟』の最後も衝撃でしたが、この作品は最後の最後で『方舟』を読んだ人にさらなる衝撃をもたらすミステリー				
9	2024/1/24	単行本	発売日	2023/9/21
	あなたが誰かを殺した		著者名	東野圭吾
加賀恭一郎シリーズ 王道のミステリー すらすら読めて面白かった				
10	2024/1/24	単行本	発売日	2023/10/23
	なれのはて		著者名	加藤シゲアキ
多くの人に読んでもらいたい満足感たっぷりの作品 1枚の絵から始まったミステリー 戦争・歴史・家族・報道・発達障害と多くの題材が盛り込まれた壮大なストーリー				
11	2024/1/24	コミック	発売日	2023/2/21 6/22 9/22
	夢てふものは頼みそめてき Daydream Believers (2)~(4) 全4巻		著者名	灰田 高鴻
明治から大正にかけて実在した浮世絵師・池田輝方とその妻でやはり浮世絵師の池田蕉園（榊原百合子）の破天荒な青春を描く。すれ違い、ぶつかり合い、描くことにも愛することにもまっすぐに突き進んだ二人の恋路の果てにあるものは――。時を超えて紡がれる芸術と愛を描いたラブコメディである。				
12	2024/1/24	コミック	発売日	2023/3/23 6/22 9/22 10/23
	黒博物館 三日月よ、怪物と踊れ (3)~(6) 全6巻		著者名	藤田和日郎
本作は小説『フランケンシュタイン』の作者、メアリー・シェリーの半生をもとにした伝奇アクション漫画である。舞台は女王が君臨する輝かしきヴィクトリア朝の英国。現代とは比べものにならないほど女性の地位は低かった。その女性差別の様も容赦なく描かれる。メアリーとともに主人公を務める“怪物”エルシィはヴィクトリア女王暗殺の使命を帯びた女剣士集団の一人だったが……。彼女は教養も学もない鈍くさい娘であるが、思いやり根ざした見識があり、虐げられた女たちを次々と救っていく。明快で爽快なストーリーが心に響く。				
13	2024/1/24	児童書	発売日	2023/9/27
	深すぎてヤバイ 宇宙の凶鑑 宇宙の不思議、おもしろすぎて眠れない！		著者名	本間希樹 イラスト／ポビコ
世界初のブラックホール撮影に成功したEHT日本代表の本間希樹氏が解説する「宇宙のこと」「生命のこと」「未来のこと」……。総ルビの児童書なのだが、大人の鑑賞にも十二分に堪える内容になっている。オールカラー160ページで1400円という低価格も講談社ならではの強み。				
	2024/1/24	講談社現代新書	発売日	2023/8/20
	はじめての人類学		著者名	奥野克巳

14				
	2024/1/24	講談社現代新書 日本の歪み	発売日 著者名	2023/9/20 養老孟司、茂木健一郎、東浩紀
15				
	2024/1/24	児童書 もえとかえる ことばのふしぎ大冒険	発売日 著者名	2023/9/26 灰田 高鴻
16				
	2024/1/24	講談社選書メチエ 国鉄史	発売日 著者名	2023/12/7 鈴木勇一郎
17				
	2024/1/24	講談社学術文庫 裏切り者の中国史	発売日 著者名	2024/1/11 井波律子
18				
	2024/1/24	単行本 一線の湖	発売日 著者名	2023/12/11 砥上裕將
19				
	2024/2/7	単行本 硫黄島上陸―遊軍ハ地下ニ在リ―	発売日 著者名	2023/7/25 酒井聡平
20				
	申請日	講談社学術文庫 デパートの誕生	発売日 著者名	2023/11/7 鹿島茂
21				

人類学とは「人間とは何か」を問う学問分野である。その100年に亘る知的格闘を、人類学の最重要人物たちが打ち出した「4つの生」すなわち「生の全体」「生の構造」「生のあり方」「生の流転」の流れに沿って概観した入門書。すらすら読める。先人たちが見つけ出してきた答えは、今を生きる私たちが現実を生き抜くための「武器」にもなり得るとするのが著者の主張である。

この社会の居心地の悪さはどこからきたのか？ 「考えがなかつた」戦後日本の論点を3人の碩学が徹底討論。「右も左も、いまだに日本は外圧頼り。内発的に自分たちの価値を肯定し、守ることができない」（東）、「日本人は戦争による被害も、人災ではなく天災のように捉えてしまう」（茂木）、「『シビリアン・コントロール』なんて、自分の国の言葉にもできないようなものが身につくはずがない」（養老）などなど、示唆に富む発言がちりばめられている。

「おにぎり」とおむすびってなにがちがうの？ 緑色なのになぜ「青信号」とよぶの？ などなど、大人も知らない日本語のナゾに迫る、マンガとイラストが主体となった、ことばの入門書。小学校中学年向き。

かつて日本には国家の所有する鉄道があった。その組織は平時においては陸軍をしのぐ規模を誇り、その路線は列島の津々浦々を網羅せんとするものであった。昭和末期に「国鉄」が解体されて久しい。いま鉄道は社会的インフラの役目を失おうとしているかのように思われる。歴代の国鉄トップは、政治家や官僚たちは、そして現場の人々は、この巨大交通システムに何を託してきたのか。

春秋時代から明末清初まで2500年にわたって興亡の絶えない中国をかき回した反逆者たちの数奇な人生を描く。筆者によれば、大多数の登場人物は、どこか間が抜けていたり滑稽だったり、いわば中国史のトリックスターの要素を兼ね備えているらしい。オリジナルは1997年刊の選書メチエだが、決して堅苦しくはなく、ごく普通の歴史読み物として面白く読める。この内容を手軽な文庫にしたことを評価したい。

メフィスト賞を受賞し映画化もされた『線は、僕を描く』の続編。進路に悩む主人公が、亡き母の勤めていた小学校から水墨画教室の依頼を受け、子どもたちとの出会いを通じて自分と向き合い……。無限の色彩を映す水墨画を通して、葛藤と成長を描く感動長編。泣けます。

太平洋戦争末期、1カ月にわたる激闘の末に玉砕した硫黄島。そこでは戦死者2万人のうち1万人の遺骨が行方不明のまま。遺骨収集はなぜ進まないのか。本書は父親を早くに亡くし、父島で硫黄島との通信に当たった祖父を持つ、北海道新聞の記者が、「旧聞記者」と名乗りながら、執念ともいえる調査や多くの困難を乗り越えて4度の収集団に参加した記録である。火山の熱い地熱に耐えながらの発掘作業、日本行政の縦割り組織や日米の壁に阻まれ続けながらも、それでも諦めない強い意志が胸を打つ。

19世紀中頃、第二帝政期のバリで世界初の百貨店ボン・マルシェを誕生させたブシコー夫妻の事績を辿る社会文化史。Inspire Impossible Storiesを具現化した渾身の力作である。夫妻の先見性、実行力は百貨店の原点となるビジネスモデルの発明に留まらず消費資本主義の形成に連なった。壮麗な異空間の巨大店舗で集客するとともに「定価販売」「現金販売」など斬新卓抜な販売戦略を発明。一方、管理面でも従業員のやる気を引き出す独創的な経営の理念を発明。本作は立地型・都市型の小売業である百貨店の今後の洞察に役立つ恰好の内容である。ロングセラーの現代新書「デパートを発明した夫婦」の改題文庫版。さらに版を重ねるよう増補改訂した編集者の新しい着眼点や時代を見る目の確かさは評価に値する。

	申請日	講談社学術文庫	発売日	2023/7/13
		明と暗のノモンハン戦史	著者名	秦郁彦
22	<p>1939年満蒙国境のノモンハンで起きた国境紛争である「ノモンハン事件」は日本軍とソ連軍の前面衝突に発展した。報道管制の厳しかった当時でさえ、日本軍が相当苦戦をしているという情報は漏れ伝わっていた。第二次大戦後、当時の時代的風潮から、日本軍の惨敗、ソ連軍の大勝がソ連側の宣伝もあり、一般的な見解であった。1990年代になりソ連の崩壊に伴い、秘密文書が公開されると、実装はソ連軍の死傷者数は日本軍のそれを上回っており、(日本軍二万以内、ソ連軍二万六千以上)実体は日本軍の勝利だったのではないかという、論調も声高になり始めた。ノモンハン事件は、このように時代によって評価が変わるという珍しい戦闘であった。著者はこのような意見を排し、冷静に内外の膨大な文献を調査して、本書を書き上げた。ノモンハン戦史のトップクラスの著作で、一般書としては現在最高のものである。</p>			
	申請日	児童書	発売日	2022/10/5
		北里柴三郎 日本近代医学を築いた肥後もっこす	著者名	茨木保
23	<p>日本医学界の巨人であり医学者としての数々の業績もさることながら、伝染病研究所の設立、慶応大学医学部の創立に功績があり「日本医師会」の初代会長に任せられる等、医学行政に貢献した北里柴三郎を「肥後もっこすく一言居士、硬骨漢」というバックボーンから描いたユニークな伝記である。著者は医者であるとともに漫画家、イラストレーターでもあり、その点でもユニーク、文章は平易で読みやすく、医学的知識の少ない者にも読みやすい。また北里個人の私生活、家庭環境にも言及する等、人間柴里を知るうえで興味深い。</p>			
	2024/1/24	講談社選書メテエ	発売日	2023/5/15
		中華を生んだ遊牧民	著者名	松下憲一
24	<p>習近平体制下「偉大なる中華民族の復興」という言葉が叫ばれるようになった。元来中国史は北方民族と漢民族の抗争融合の歴史であった。近年では世界的な中華帝国である隋、唐も北方遊牧民国家であるとする見解が強い。本書は隋、唐の先駆的存在である北魏に注目、その元となった鮮卑拓跋部(せんびたくばつ)が如何にして北魏を建国して、中華化していったかを描いている。生活文化的にも北方民族の主要植物である羊肉(ヒツジ)、肉漫(ニクマン)、餃子(ギョーザ)も中華料理に取り入れて行ったが描かれていて興味深い。</p>			
	2024/1/24	学術文庫	発売日	2023/9/11
		魏武注孫子	著者名	渡辺吉浩
25	<p>現在「孫氏の兵法」として世界で読まれている「孫氏」は、古来十一人の人物が注釈を書いているが、その中で、「三国志」の英雄であり、「三国志演義」では悪人とされている魏の曹操のものが一番すぐれているといわれている。著者の渡辺義浩氏は三国志学会の事務局長であり三国志研究では第一人者といえるが、この点に留意して曹操版孫氏の兵法を著述した。さらに三国志の実際の戦闘を解説する事により「孫氏の兵法」を分かりやすく、またふくらみを持たせている。今までにない手法でありユニークな「孫氏の兵法」の解説書と言えるであろう。</p>			
	2024/2/26	講談社+α新書	発売日	2023/4/19
		完全シュミレーション 台湾侵攻戦争	著者名	山下裕貴
26	<p>元陸上自衛隊最高幹部による台湾有事のシュミレーションである。中国が台湾を武力による統一をめざす日は近いということか。本書の結びを読むと、中国、台湾どちらも勝者にはなりにくいという結論である。戦争に参加するアメリカ、日本の被害も詳述している。特に沖縄、南西諸島が攻撃にさらされ住民にも多大な損害がもたらされる。今の政府のように、軍備拡張を続けていけば、危険度は高まるばかりだろう。台湾を朝鮮半島のように二分化するようなことはあってはならない。台湾問題を考える一つの参考書として読んだ。扉にある言葉「兵は拙速を聞くも、いまだ功の久しきを見ざる」(孫氏の兵法)大意。「そもそも、戦争が長期化しても国家にとっての利益が増したことは未だ無い」著者はこの言葉にどのような思いをこめたのだろうか。短期決戦でしか勝利はないということだけではないと思いたい。</p>			
	2024/2/26	α新書	発売日	2023/9/20
		「人口ゼロ」の資本論 持続不可能になった資本主義	著者名	大西広
27	<p>日本の少子化が止まらない。このまま推移すれば、日本の人口は5000万人を下回るだろうと言われている。政府の「異次元の少子化対策」も有効な歯止めとは到底思えない。この喫緊の課題にマルクス経済学はどう考えるのか。現状分析とその対策を提示しているのが本書である。新書という紙数の少ない本で、少子化は「根本的な社会変革」を必要とし、それは資本主義の枠内の改革では出来ず、社会主義によってこそ実現可能であると明解に語っている。類書も多いが、資料豊富で多くの論点が明示されている。続編を期待したい。</p>			
	2024/2/26	α新書	発売日	2023/7/19
		「山上徹也」とは何者だったのか	著者名	鈴木エイト
28	<p>タイトルの「山上徹也」は、2022年7月8日に奈良で安倍晋三元首相を銃撃、殺害した。日本中を震撼させた「山上徹也」の犯行動機は何だったのか。本人が何も語らず、公判が開始されていない今、真相は謎のままである。山上が言う「旧統一教会への恨み」とはなんなのだろうか。統一教会問題を一貫して追及している著者が「山上の真実の想いを紡ぎだせるのは私だけだ」という信念のもとに書かれた貴重な内容満載の本である。安倍晋三元首相と統一教会との密接な結びつきはまだ解明されず、自民党とこのカルト集団との関係も闇の中にある。講談社+α新書に本書があることは特筆すべきことだ。</p>			
	申請日	学芸書	発売日	2024/2/7
		温めれば、なんどだってやり直せる チョコレートが変える「働く」と「稼ぐ」の未来		夏目浩次

29	久遠チョコレートのことを初めて知りました。700名近い従業員が障害者、引きこもり、LGBTQ、子育て中のママたち。一般的には「使えない」人たちに「働く場所」「稼ぐ場所」を作るという志の旗を掲げた会社が久遠チョコレートだそうです。著者は会社の代表。その経歴も面白いものでした。著者の人生を決めた二つの言葉が紹介されている「ユニバーサルデザイン」「ノーマライゼーション」。この言葉の実現を目指すのが久遠チョコレートなのだという。一読して久遠チョコレートを食べたくなった。品質には自信があるという。現在東京では店舗販売はしていないらしい。本社は豊橋で名古屋や大阪に店舗がある。調べてみると以前、住まいの近くに「浜田山・荻窪店」があった。これは不覚としか言いようがない。	申請日	講談社現代新書	発売日	2024/1/20
			世界は経営でできている		岩尾俊兵
30	この本の新聞広告に驚いた！「資本主義から仕事の楽しさと価値創造を取り戻す痛快エッセイ集」と経済思想家は持ち上げ、文芸評論家は「私たちがこれまで抱えてきた幸福感や価値基準をがらりと転換してくれる」とほめちぎる。それに乗せられて読んでみた。全部で15項目。貧乏、家庭、恋愛、勉強、虚栄、心労、就活、仕事、憤怒、健康、孤独、老後・・・と15の経営の極意。教養のない人にも教養のある人にも参考になるらしい。面白いようにつまらないような複雑な読後感。本書のはじめにある「日常は経営でできている」終わりの謝辞「本書は他力でできている」には大いに納得したが、東大初の経営学博士の今後に期待しよう。				
		申請日	学芸書	発売日	2023/7/27
31			硫黄島上陸 友軍八地下二在り		酒井聡平
		申請日	文芸書	発売日	2023/8/27
32			伝言		中脇初枝
		申請日	学芸書	発売日	2023/12/6
33			篠田桃江画文集「私の体がなくなっても私の作品は生き続ける」		篠田桃虹
		2024/3/21	学芸書	発売日	2023/10/24
34			怪物に出会った日 井上尚弥と闘うということ		森合正範
	スーパーバンタム級の4団体統一王者の井上尚弥。26戦26勝、23KOの異様なまでの強さゆえ、「モンスター」と呼ばれる。その強さとは何か…。彼と闘って敗れた11人を、日本人はもとより、メキシコ、フィリピン、オーストラリア、アルゼンチンまで訪ね歩き、正体を浮かび上がらせる。拳を交えたボクサーたちの言葉からは、怪物の強さだけではない人間性、また敗者たちのその後の人生が彼と闘ったことにより、輝きを増していくことが語られる。。単なるスポーツ読み物のジャンルを超え、濃密なヒューマンドキュメントになっている。				
		2024/3/25	ブルーボックス	発売日	2024/1/20
35			あっぱれ！日本の新発明―世界を変えるイノベーション―	著者名	ブルーボックス探検隊
	何かと暗いニュースの多い昨今の日本、世界にインパクトを与えうる発明を10件紹介して、意気込みを見せた企画。鋭いサイエンス系ライター4人を組織して「探検隊」を作り、産業技術総合研究所の技術者の話を分かりやすく提示している。総合的編集力を評価したい。シリーズ化することもできるのではと思えるので、官庁系だけでなく、ロケットや鉄道、海運など、いろいろな分野で世界をリードする技術、企画、プロジェクトを取り上げて行って欲しい。				
		2024/3/25	講談社現代新書	発売日	2023/10/20
			世界史の中の戦国大名	著者名	鹿毛 敏夫

36	戦国時代といえば、信長、秀吉、家康らによる内戦の時代というイメージだが、本書は主に九州、山口の大名たちが、この時代にカンボジアやタイ、あるいはヨーロッパ諸国とかなり積極的に交易していたことを描いている。イエズス会士たちが頻りに送った報告書にもとづき、大友宗麟が王のようにザビエルらを引見する様子を描いたヨーロッパの絵画なども収載し、新鮮な戦国時代像を提供する。著者が張り切り過ぎて、新書にしてはやや硬い印象ではあるが、戦国時代の西国大名たちは通念を遥かに超えて国際的であったことを描く好著である。			
	2024/4/1	文芸書 きらん風月	発売日 著者名	2024/1/20 永井紗耶子
37	「木挽町のあだ討ち」で直木賞授賞後の第1作。江戸中期に実在した戯作者栗杖亭鬼卯（りつじょうていきらん）＝主人公のもとに隠居した老中松平定信が訪ねてきて対話をするという筋書きになっている。鬼卯は「きらん亭」というたばこ屋を営んでいる。舞台は東海道の日下宿。現在の掛川市。戯作者（自由人な文化人）と元老中（最高権力者・体制側知識人）の対話劇であるが、内容豊かで読みごたえがある。円山応挙、上田秋成、曲亭馬琴などなじみ深い人物も沢山登場する。来年度の大河ドラマ「黒屋重三郎」の世界の予告編のようにも読める。楽しく読めて、今の時代を深く照射している。文化と政治の有り様、関りを考える良い本です。一読ください。作品の最後を引用。「文化十五年の春の終わり。花びらの舞う日下宿の街道で、戯作者栗杖亭鬼卯と風月堂松平定信は、ひとときの邂逅の後、静かにすれ違って行った」。			
	2024/4/1	ブルーバックス 免疫「超」入門	発売日 著者名	2023/11/20 吉村昭彦
38	新型コロナ禍で注目を浴びた免疫と言うものにあがついて、その働きや人体が生きていくのに、いかに大切さが多少理解が深まった。なじみの薄いカタカナ語が多いが、メカニズムが多少自分なりに判った気がしました。			
	2024/4/1	学芸書 温めれば、何度でもやり直せる	発売日 著者名	2024/2/7 夏目浩次
39	書名の副題に「チョコレートが変える『働く』と『稼ぐ』の未来」とあり、これがテーマである。「使えない」とレッテルを貼られた障害者が健常者と同じ稼ぎが出来る会社を作りあげた実践記録。パン作りでは失敗したが、チョコレートでは何故成功したか。その秘密を余すところなく紹介している。/編集・講談社エディトリアル			
	2024/4/10	学芸書 続 窓際のトットちゃん	発売日	2023/10/3 黒柳徹子
40	1981年刊行のベストセラーの40年を経ての続編。当日、学芸局に在籍、その高揚感はいまだに記憶に残っています。内容はこれで戦中戦後を経て、お話が現在につながったという印象。自己肯定しにくい現代人に安堵感を送る好著として読んでほしい一冊！			
	2024/4/10	文芸書 新古事記	発売日	2023/8/8 村田喜代子
41	第二次世界大戦終結前夜、アメリカ南西部の渓谷で極秘裡に行われた原爆実験に携わる科学者とその家族の有り様を、日系三世の女性の視点で描く。「ロスアラモスからヒロシマへ」というテキストにインスパイアされ、異界に置かれた女性を描いて評価の高い筆者在挑む、世界観を解体再生するかのような意欲作。			
	2024/4/10	文芸書 異国の夢二	発売日	2023/6/8 ひろたまさき
42	やっぱり竹久夢二は気になる男です。長らく夢二の研究を続けてきたひろたまさきは、アメリカとヨーロッパでの晩年の夢二を追いかけ、決定版を書き終えて亡くなりました。この本は著者の遺稿であり、周辺の方々の手助けもあって刊行が実現しました。その結果、細部における見直し確認がより緻密になされ、著者の悲願であったほんとうの夢二の姿が浮かび上がります。40年ほど前、第2次世界大戦中の欧州で夢二がユダヤ人の逃亡を手助けし、ナチスの抑圧から救ったもうひとりのシンドラーと囁かれたことがありました。政治学者の袖井林二郎などが検証し、この説には強い疑問が出されました。そうした伝説にも答えてくれながら、稀代のプレイボーイにして絵でも文章でも美を追求したボヘミアン、風雲児の魅力に迫る夢二探究に欠かせない究極の一冊です。			
	2024/4/10	講談社現代新書 未完の天才・南方熊楠	発売日	2023/6/20 志村真幸

43	「雑誌『ネイチャー』51編もの論考を発表していたのになぜ投稿をやめたのか？」「きのこの新種を発見しながら発表しなかったのはなぜか？」「ともに民俗学の礎を築いたのに柳田国男と喧嘩別れしたのはなぜか？」「天皇に御進講するほどの実力があながら定職につかなかったのはなぜか？」「なぜ夢の研究を長年続けたのか？」などなど、「人類史上もっとも文字を書いた男」といわれる鬼才南方熊楠をめぐる多くの謎に挑んだ力作です。1888年に留学先のミシガン州立農学校での乱闘を引き起こし、アメリカ人学生3人を1年間の停学に追いこんで勝利するなど、語学の天才でもあった南方熊楠の痛快なエピソードも満載。牧野富太郎にも引けを取らない生物学者であり、神社合祀反対運動に垣間見えるエコロジーの先駆者であり、河童などのデータを提供し妖怪研究でも手助けしたという、ひと筋縄ではいかない熊楠はどこを切り取ってもおもしろい。	2024/4/10	絵本 どっち？	発売日	2023/12/5
	カステラや「たい焼き」にはかぶりつきたくなりますし、「溶けかけの氷」や「注がれるコーヒー」には思わず手を引っ込めます！ 渋谷パルコで開催された「クイズ形式の展覧会 どっち？展」は人の山。正解を明かされて見直してもまだ区別がつかないほどわかりません。 私も気合を入れてクイズに挑戦したものの悪戦苦闘の連続でした。「木彫り判定士上級」はなんとかゲットしましたが……。				
44	2024/4/10	絵本 さがるまーた	発売日	2023/11/3	荒井良二
	そういえばこんなおもちゃ箱がほしかった、といわせる雑誌です。書き下ろし絵本が10話以上つまった超豪華オムニバス絵本雑誌。 とじ込み付録の大型ポスターがあつと驚かせ、描き下ろし絵本の別冊付録がワクワク感を高め、初めて絵本に触れる子どもからアートを愛する大人まで、絵本を体験することができ、とにかく絵本が好きになる雑誌です。				
45	2024/4/10	コミックス 王の病室①②③	発売日	2024/3/6	灰吹ジジ／原作 中西淳／作画
	「命」と「金」はよく似ているという視点から、医療大国ニッポンの不都合な現実を描いたコミック。 王様である患者たちの治療に札束が蒸発している実態を描きます。いつか患者になるすべての人々に贈る医療サバイバル。 反響がありながら連載中止になったことでも注目されています。				
46	2024/4/17	講談社現代新書 ローマ帝国の誕生	発売日	2024/2/20	宮崎麻子
	本書を熟読して人口に膾炙した諺「ローマは一日にして成らず」、「すべての道はローマに通ず」の由来について、より見識が深まった。「ローマ帝国」は宿敵カルタゴを征服した前2世紀中葉頃に誕生。以後約700年に亘り繁栄し、超大国となった。その版図は全地中海世界に拡大し、イタリア半島以外の属州を支配した。著者はローマ隆盛をもたらした属州支配の統治構造に着目。支配者ローマ市民が生きるローマと、被支配者が生きる属州の総体がローマ帝国の法制度的な基本構造であると指摘。統治構造が支配・搾取から属州民に配慮したものにへ変容していった様態を詳述。この古代ローマ史観は混迷する現代世界に新たな視座を与えてくれる。				
47	2024/4/17	講談社現代新書 人はどう老いるのか	発売日	2023/10/20	久坂部羊
48	2024/4/17	α新書 高学歴親という病	発売日	2023/2/27	成田奈緒子
49	2024/4/17	講談社文庫 愛されなくても別に	発売日	2023/7/14	武田綾乃

50	2024/4/17	講談社文庫	発売日	2023/8/10
		最後の光	著者名	堂場瞬一
51	2024/4/17	α新書	発売日	2023/8/21
		タテの想像力とヨコの想像力	著者名	池上彰
52	2024/4/17	α新書	発売日	2024/1/16
		うまく老いる	著者名	樋口恵子・和田秀樹
53	2024/4/17	α新書	発売日	2023/1/18
		藤井聡太はどこまで強くなるのか	著者名	谷川浩司
54	2024/4/17	学芸書	発売日	2023/2/17
		農協のフィクサー	著者名	千本木啓文
55	2024/4/17	ブルーバックス	発売日	2023/4/20
		自律神経の科学	著者名	鈴木郁子
56	2024/4/17	コミックス	発売日	23/8/7 23/10/5
		くりことびより(1)(2)	著者名	雪本愁二

57	お菓子メーカーで働く総二郎と妻の真琴。子どもができないふたりは里子のくり子を迎えた。緊張しているのか「ん」しか言わないくり子。しかし、総二郎の得意なお菓子作りには興味津々で、そのことを通じて三人の距離は縮まってゆくが……。戸惑い、不安になりながらも絆を深めていく親子の愛情物語。			
	2024/4/29	ブルーバックス	発売日	2024/1/20
		地球46億年 物質大循環 地球は巨大な熱機関である	著者名	月村勝宏
58	地球にある大量の水が地球の運命を決めた！ なぜ地球にだけ多量の水があり、陸と海という高低差があるのか？ 生命はいかにして生まれたのか？ 地球46億年の歴史を繙きつつ、その謎に迫る。地球はその内部の熱でさまざまな物質を循環させ、生命に適した環境をつくりあげてきた。まさに「地球は生きている！」のである。画期的新視点から描く地球科学入門！			
	2024/4/29	ブルーバックス	発売日	2023/12/20
		疲労とはなにか すべてはウイルスが知っていた	著者名	近藤一博
59	欧米では疲れていても働くことは愚かなこととされるが、日本では逆だ。だからなのか、日本の疲労研究は世界で最も進んでいるらしい。「疲労」を科学的に解析して分かってきたのは、そこにウイルスが大きく関わっていることだった。うつ病の原因となる遺伝子「SIIT-1」の発見者が明かす、常識を覆す疲労の正体とは？ なんと新型コロナ後遺症もまた疲労とウイルスの問題だったとは！			
	2024/4/29	講談社現代新書	発売日	2023/8/20
		中流危機	著者名	NHKスペシャル取材班
60	かつて「一億総中流社会」と言われた日本。しかし、いまや日本はかつてのような「豊かな国」ではなく先進国の平均以下の国になってしまった。日本の中間層はなぜかくも貧しくなったのか。負のスパイラルから抜け出すために、国や企業、そして故人はいったい何ができるのか。日本人と日本経済を蝕む「中流危機」の病巣に迫る一書。			
	2024/4/29	ブルーバックス	発売日	2023/1/20
		普通という異常 健常発達という病	著者名	兼本浩祐
61	最近よく聞くADHD（注意欠陥・多動性障害）やASD（自閉スペクトラム症）という診断名は「非定型発達」とも呼ばれ、一定の特性を持った脳のあり方に関する名称であって、肺炎と同じような意味での病気ではないらしい。一方で、もしかしたら誰しもが抱いたことがあるのではないと思われる「相手が自分をどう見ているかが気になって仕方がない」「自分は普通ではなくなってしまったのではないか」という不安は、定型発達の特性が過剰な人の場合は負けず劣らず病的であることもありうるのではないかと、というのが本書の問題意識である。大きな物語が有効に機能して自分が家庭や社会で果たしている義務がそのまま社会の要請を満たしていると信じられた理想の時代（昭和）と、そういった一次的共同体（家庭やクラス）と二次的人為的共同体（国や世界）の蜜月状態が成立しなくなった虚構の時代あるいは不可能性の時代（現代）の異なった倫理のあり方の指摘が興味深かった。			
	2024/4/29	学芸書	発売日	2024/1/17
		奔流 コロナ「専門家」はなぜ消されたのか	著者名	広野真嗣
62	尾身茂、押谷仁、西浦博……コロナの不確実性を前に、政権は彼らを頼り、政権と世論に翻弄されながら危機と闘った感染症専門家たち。しかし彼らは蹴り出されるような形（キックアウト）で政権の近くから姿を消した。日本のコロナにおける危機管理とは何だったのか？ 尾身は語る「日本では、危機に際しての『意思決定の文化』がまだ確立されていない…（中略）…専門家の意見を聞きつつ、ほかの政治状況も考え併せて結論を導くという正・反・合の弁証法のようなプロセスが足りなかった」と。西浦は言う「セキュリティというものを他者に任せていて、依存していれば大丈夫と考えてしまうような、自主性が欠けているような国民性がありはしないか」と。これは日本の安全保障政策と同じだなと感じてしまった。			
	2024/5/8	文芸書	発売日	2024/5/15
		サクラの守る街	朝宏宏景	
63	生きていく時間のなかで、大切にしていること＝守るもの。自分の答えを見つけながら……。読みやすかった。			
	2024/5/8	講談社文庫	発売日	2023/7/14
		小説 こんにちは、母さん	小池水音	

64	山田洋次監督・吉永小百合・大泉洋主演 映画化。映画も小説も、ほっこりした。			
	2024/5/8	学芸書	発売日	2023/7/27
		硫黄島上陸 友軍ハ地下ニ在リ		酒井聡平
65	蓋をして、終わりにしてはいけない歴史。謎解きではなく、事実を残す努力をする伴走者となる一冊ではないか。文屋（北海道新聞記者）の、執念を感じた。			
	2024/5/8	コミックス	発売日	2023/8/30
		南海トラフ巨大地震1		原著biki 漫画よしづきくみち
66	自分が生きている間には、どうぞ起きないで。そう、願いながらドキキ読み、後世にも起きないで！怖すぎて、現実を考えたくなくて、でも備えなくてはいけないと思いながら、読んだ。漫画を取り入れた編集者のアイデアは、良かったのでは？			
	2024/5/8	文芸書	発売日	2023/9/11
		逝きたいな ピンピンコロリで 明日以降		三浦明博
67	老いも若きも、クスリ（笑）ほろり（涙）の書き下ろし小説。おもしろい。そして、あるある！と、共感してしまう。			
	2024/5/8	文芸書 第二事業本部 mi-mollet事業部	発売日	2023/9/28
		なんかいやな感じ		武田砂鉄
68	なんか嬉しい、なんか楽しい、なんか悲しい、なんかいやな感じ……。なんかいやな感じって？なんかわかるような、わからないようなエッセイである。少し、物足りなかったかな？			
	2024/5/8	学芸書 第二事業本部 mi-mollet事業部	発売日	2023/11/28
		1000枚の服を捨てたら、人生がすごい勢いで動き出した話		蛭田祥子
69	「断捨離」っぽい成功話は、つつい読みたくなる。残念ながら、私は感心しながら読んだものの、服は捨てられなかったけど。			
	2024/5/8	コミック	発売日	2023/9/26
		もえとかえる ことばのふしぎ大冒険		文：川上徹也 絵：春仲萌絵
70	日本語って、おもしろいな。日本語って、難しいな。おもしろくて、ためになる本だった。本好きの、孫が絶賛！日本人だから、当たり前のように使っている「日本語」だけど、奥深いことば、難しい言語と再認識した。老若男女の多くの人が、手にとってほしい。日本語を学ぶ人や、日本案内本として、他国語でも出版したら面白いかも？と、思いました。			
	2024/5/8	学芸書	発売日	2023/10/3
		続 窓際のトットちゃん		黒柳徹子

71	42年ぶりの続編。おもしろかった。文章も難しくなく、幼くもなく、テンポ良く、読めました。たっさんの人に、読まれる予感！ただ・・・。「窓際のトットちゃん」がアニメ化されたが、鑑賞後に後悔。文字からの感動が絶大だったせいか、アニメはガッカリ。時間的な問題があったのだろうが、端折りすぎでいた感じがした。本を読んでいる同席者は「まとまりがない」「何が言いたかったの？」との感想。本を読んでいたからこそ「あっ、あのシーンね」と思い、「端折りすぎ」と感じたのだろう。鑑賞後、アニメをかき消すように、数年ぶりに「窓際のトットちゃん」を読み直した。そして、まだ読んでいない同席者に、読ませた。やっぱり、感動し面白かったです。どうぞ、この続編は映像化はせずに書籍だけにしてほしい。文字からの感動を大切にほしい。			
	2024/5/8	学芸書 そば猪口の文様 絵解き事典	発売日	2023/12/4
72				飯田義之 岩間健貧
		そば猪口の絵柄が持つ、教養と洒落。歌舞伎に源氏物語、言葉遊びと、見て楽し、読んで楽し。		
	2024/5/8	ブルーバックス 疲労とはなにか すべてはウイルスが知っていた	発売日	2023/12/14
73				近藤一博
		「つかれたあ」疲れを科学的に分析。ブルーバックスらしい、ちょっと難しいけど、読んでしまう科学的な本でした。		
	2024/5/8	学芸書 講談社お料理BOOK 一食一品つくるだけで栄養がしっかりとれるシニアご飯	発売日	2023/12/13
74				本多京子
		「キッチン」と言わずに「お台所」と言う世代には、リアルな食生活指南書。お台所に置きました。高齢者には、栄養も大切だけど「簡単」も重要なことです。		
	2024/5/8	α新書 1日3分 血圧と血糖値を下げたいなら血管を鍛えなさい	発売日	2023/11/15
75				加藤雅俊
		「キッチン」と言わずに「お台所」と言う世代には、リアルな食生活指南書。お台所に置きました。高齢者には、栄養も大切だけど「簡単」も重要なことです。		
	2024/5/8	学芸書 第二事業本部 mi-mollet事業部 信じ切る力 生き方で運をコントロールする50の心がけ	発売日	2024/3/21
76				栗山英樹
		「できるか、できないか」でなく、「やりたい」という気持ちと行動。多くのことが、心に残る本でした。注目の、誰もが好感を持つ栗山氏の実践的な人生論。ただ、もう少し早く（WBC優勝直後？おそくても、せめて半年後？）出版されてほしかった。		
	2024/4/9	現代新書 世界は経営でできている	発売日	2024/1/20
77				岩尾俊兵
		本書で述べるところの経営とは、企業経営や金儲けの手段ではない。本来の経営は、価値の創造であり、それによって自分と他人を同時に幸せにすることであると述べている。仕事も家庭も、恋愛も健康も、老後まですべて経営できていると説く。読み始めは何だこの本はと思ったが、読み進むにつれ、フム、フムと何となく納得させられる。また、小見出しが文学作品のバロディになっており、そこに著者と編集者の苦労が見てとれる。ただ、あまりにもその小見出しにとらわれすぎて、ややこじつけ気味に見受けられる部分も感じる。		
	2024/4/30	ブルーバックス あっぱれ！日本の新発明—世界を変えるイノベーション—	発売日	2024/1/20
			著者名	ブルーバックス探検隊

78	<p>かつて日本の工業製品は高品質と低価格で世界を席巻した。まさにジャパン・アズ・ナンバーワン。ところが現在は中国や新興国の台頭で厳しい状況にある。そんな中、新しい技術やアイデアで「ものづくり」復活に向けた取り組みをしている、産業技術総合研究所。「フロンも代替フロンも使わない磁気による冷蔵庫」「地熱発電ならぬ地中熱利用の冷暖装置」などなど、新製品だけでなく地球環境にも貢献できる10の研究を紹介。これらが実現できたら「ものづくり」復活だけでなく、環境問題も大きく前進できる。そんな研究がずらり揃って胸がわくわくしてくる一冊である。</p>			
	2024/5/12	学芸書 実用・エンタメ ミニシミテ	発売日 著者	2024/3/10 田中泯
79	<p>現在の日本で傾聴に値する一人。講談社からこの本が刊行されたことを評価します。著者の田中泯を私は先ず俳優として知った。その後ダンサーとして内外で高い評価を受けていることを知った。映画やYouTubeで彼の踊りを見た。場踊りという、どこでも踊る姿に驚嘆した。この不思議な存在感は何なのだろうか。これは山梨日日新聞に連載されている「えんぴつが歩く」をまとめたもので、現在も継続中とのこと。彼は山梨の農村を拠点として農業を営みながら踊りの世界を探索している。踊りと同じように、彼の言葉も「身に染み、心に染みる」。270頁全体を楽しく読みました。</p>			
	2024/5/12	文芸書 新古事記		2023/8/10 村田喜代子
80	<p>映画「オッペンハイマー」を見たらこの「新古事記」を読もうと思っていた。この小説が映画と同じアメリカの原爆製造計画を描いたものということを知っていたので。映画はオッペンハイマーの視点から描かれている。この小説の語り手は、恋人の物理学者と一緒にやってきた日系3世の女性アデラである。そして夫の科学者とともに「Y地」（小説上。実際はニューメキシコのロスアラモス）に来たたくさんの家族、犬なども登場する。これは壮大な群像劇にもなっている。原爆の研究は進められているのに女性たちには知らされない。（徐々に明らかになってくる）小説の最後で原爆実験が行われる。この小説は「ロスアラモスからヒロシマへ」というこの地で科学者の夫と暮らした女性の手記をもとにしているという。読み始めたら止められない傑作小説に仕上げた著者の力量に敬意を表したいと思う。この小説があることを大勢の人に知ってほしいと願う。荻結の挿画は内容を良く伝えている。帯の言葉も心に残る。本全体が光彩を放っている。この仕事をした編集者の話を聞きたいものです。</p>			
	2024/5/12	現代新書 ふしぎな中国		2022/10/20 近藤大介
81	<p>中国と同じ漢字文化圏の日本人だから理解できる中国の新語・流行語・隠語を中国とのお付き合いの深い著者が分かりやす解説。まさに今の本当の中国がわかる面白い本です。中国人も日本人も庶民レベルでは同じだと感じることで体制の違いから差異が際立つことなど、習近平体制の今の中国と中国人がわかるおすすめの本です。</p>			
	2024/5/12	学芸書 風の中に立て 伊集院静のことば		2024/3/11 伊集院静
82	<p>昨年11月24日に亡くなった伊集院静氏。73歳。まだまだこれからと思っていたが残念です。毎年4月、新入社員に向けたメッセージが新聞のサントリーウイスキーの宣伝で発信されていました。そして、一言一言が心にしみてくる大人の流儀シリーズの最後の新刊。「挨拶というものの短いことが肝心である」など現役時代の自分が恥ずかしくなり、反省しきりです。「酒の味の良し悪しは、飲み手の心情にある」という言葉は、グラスを脇に置きながら何度も味わいたくなる1冊だと思います。</p>			
	2024/5/12	現代新書 日本の歪み		2023/9/20 養老孟司・茂木健一郎・東浩紀
83	<p>世代も研究分野もちがう3名の頭脳が、今までもやもやしていた日本を俯瞰したり、クローズアップしたりして、日本の歪みや「私」の歪みを浮き彫りにしてゆく。暗黙の裡に避けていた日本人の性向にも鋭く切り込んでいるのは、面白く引き込まれてゆく1冊です。</p>			
	2024/5/12	学芸書 実用・エンタメ 進撃の「ガチ中華」		2024/4/30 近藤大介
84	<p>著者・近藤大介氏は、講談社入社後、北京大学に留学し、中国・朝鮮半島を中心とする東アジア取材をライフワークとする。講談社北京副社長を経て、講談社「現代ビジネス」編集次長、コラムニスト。中国を知り尽くしたジャーナリストが東京で出会った「ガチンコ中華」の名店を自分の足で訪ね歩いたものだけに、読むだけで、ここは行きたいと思わせる店ばかり。「グルメのみならず、食文化から民族的考察迄書き連ねた“快食エッセイ”と帯にあるが、そのままの充実した内容。筆者は今から30年も前に成都の「陳麻婆豆腐」を訪ねたと書いているが、実は私はその8年ほど前に、わが社の1,2を争う中国通（当時でも通算100回以上の訪中の強者）と成都出身のRさんに連れられて成都の「陳麻婆豆腐」を訪ねたことがあり、その時のことを思い出させてくれた。その他のページもいい情報をいただいた。誰かと連れ立って行ってみたい気分がさせてくれる”おいしいページ”ばかりであり、ぜひおすすめしたい。</p>			
	2024/5/18	講談社現代新書 ダーウィンの呪い	発売日 著者名	2023/11/20 千葉 聡

85	ダーウィンが独創した「進化論」は、科学に革命を起こした一方で、3つの「呪い」を生み出した、と筆者は言う。背景には、ダーウィンの言説が、時に歪められ、必ずしも正確に伝えられていないという事もあるらしい。①「進歩」と「進化」は違うのであるが、「進歩せよ」を意味する「進化せよ」というのが「進化の呪い」。②「生き残りたければ、努力して闘いに勝て」を意味する“生存闘争と適者生存”という「闘争の呪い」。そして③「これは自然の事実から導かれた人間社会も支配する規範だから、不満を言ったり逆らったりしても無駄だ」を意味する“ダーウィンがそう言っている”という「ダーウィンの呪い」。かくしてそれらは当時の欧米の政治や社会とも結びついて、やがては大きな差別を生み、ナチスによるユダヤ人大虐殺にまで繋がっていく。本書はその歴史を繙いたものと言ってもいいだろう。さらにはその流れから現在の問題である「遺伝子操作」にも言及している。やや厚めの一冊だが、ぜひ一読をお勧めしたい。			
	2024/5/18	講談社学術文庫 龍の世界	発売日 著者名	2023/10/12 池上正治
86	雲を従え天に昇り、海底深く龍宮に潜る！ 古来、皇帝から人民にまで愛された祥瑞は、いつ、どのようにして誕生したのか？ 中国・日本・インドの龍とギリシア神話のドラゴンとの比較、龍を食べる怪鳥、正倉院に収められた龍の骨と歯の正体……など、摩訶不思議な世界に誘う魅惑の書。軽い読み物として楽しめる。			
		学芸書 怪物に会った日 井上尚弥と闘うということ	発売日	2023/10/2 落合正範
87	2024年5月6日、東京ドームで行われたボクシング4団体統一戦で、世界王者井上尚弥が挑戦者ルイス・ネリ(メキシコ)をTKOで下した。ダウンを喫したものの王者井上の圧倒的強さとすごさに、日本中が沸いた。タイトル戦27勝24KOの数字はこれからも伸び続け、ボクシング界では初めて、国民栄誉賞、文化功労者の受賞もとり沙汰され始めた。スピード、テクニック、パンチ力、防御センス、危険察知能力など、どれをとっても世界中にこれほどの選手は見当たらないという。東京新聞運動部の著者は、井上のそのものすごさに迫るべく、本人、周辺に取材しても「日本ボクシング史上最高傑作」の井上の持つすごみを余すところなく表現できないと悩んでいた。そこで、井上の過去の対戦相手を直接取材して、本当のすごさをえぐり出したものである。ノットドネアなど井上に挑戦し、敗れ去った戦士たちが語る”井上”のすごさに迫るドキュメントである。			
		ブルーバックス あっぱれ！日本の新発明	発売日	2024/1/20 ブルーバックス探検隊
88	この本の特徴は、編集部「ブルーバックス探検隊」という4人の取材記者集団をつくり、取材内容はもちろん、取材過程や取材対象の反応、雰囲気まで含めて文章化したもの。テレビの取材番組と同じだ。今回は産業技術総合研究所の協力を得て、10個の研究テーマを紹介している。ノーベル賞候補にのぼりそうな「光格子時計」の実用化に向けた研究があったり、江戸時代の北斎、若冲らも絵に使った青色顔料「プルシアンブルー」が資源革命をもたらす話など、誰でも面白く、知的興味をそそられる。大学、企業などに幅を拡げれば、「探検隊」もメンバー増やせば、NHKの「サイエンスZERO」日本テレビの「所さんの目がテン！」テレビ東京「知られざるガリバー」のような科学番組、企業発掘番組に並ぶブルーバックスのシリーズになるかもしれない。編集簿のアイデアに1票!!			
	2024/6/10	α新書 この間取り、ここが問題です！	発売日 著者名	2024/1/16 船渡 亮
89	簡単なりフォームを予定していたので読んでみました。事例が多く、これから新築を予定している人には参考になるが、リフォーム程度ではほとんど関係なし。内容は生活動線を中心の間取り図を、生活環境の違いで解説しているが、新書版で図面が小さく、一色刷りのため導線と図面の線の差が分かりにくい。原図と改良図の違いが一目で分かる工夫がほしいと感じた。例示している図面の数は多いので、じっくり読めば参考にはなる書です。			
	2024/6/10	学芸書 正義の行方	発売日 著者名	2024/3/31 木寺一孝
90	1992年2月に福岡県飯塚市で起こった、女児二人の殺人事件「飯塚事件」検証本である。DNA鑑定、目撃情報、女児の衣服から検出された糸くずなどから、被疑者の自白なしに死刑が決定した。さらに判決の2年後には死刑が執行された。本人否認のまま、また判決の2年後に執行されるのは異例のことである。本書は捜査に関わった警察と検察、スクープ報道の西日本新聞の記者、そして弁護団がそれぞれの正義に基づいて調査を行った過程を丹念に追っていく。精度の低い当時のDNA鑑定、疑わしい目撃情報、確証とは言いにくい糸くずの物証などなど。再審は2021年4月に最高裁で棄却され、現在第二次再審請求審が、弁護団から新証拠として提出された新たな目撃証言をめぐる審理中である。本書を読んでいるまさに、その最中（2024年6月5日）に福岡地裁から棄却の判決が出た。弁護団は直ちに即時抗告審に向け、検討を始めた。正義というより真実はどこにあるのか、興味は尽きない。			
	2024/6/13	ブルーバックス 生命の大進化40億年史 3巻シリーズ 土屋健 群馬県立自然博物館監修 生命はいかに誕生し、多様化したのか(古生代編) 恐竜の時代—誕生、繁栄、そして、大量絶滅(中生代編) 哺乳類の時代—多様化、氷河の時代、そして人類の誕生(新生代編)	発売日	2022/6/20 2023/2/20 2023/10/20 土屋健 群馬県立自然博物館監修
91	学者ではなく、サイエンスライターによる「カラー図説」だから、実に読みやすい。著者と編集者は「図鑑MOVE」シリーズからの「おつきあい」のようで、イラストレーターを含め、息の合った執筆・編集作業ぶりうかがえる。ただし、前回の受賞作『ティラノサウルス』と同じ編集者で、同じ恐竜も扱っているため、「一押し」なのに「押しにくい」のだ。『ティラノサウルス』を次回に回し、2作品合わせて受賞としたらどうか、という私の提案が受け入れられなかったのは、とても残念だ。			
	2024/6/13	学芸書		2024/3/26

	夢を叶えるために脳はある 「私という現象」、高校生と脳を語りつくす	池谷裕二	
92	「脳を語りつくす」高校生は、レベルの高い生徒ばかりだから、内容が哲学的領域まで入り、実に奥深い。『進化しすぎた脳』、『単純な脳、複雑な「私」』につづく「脳講義シリーズ3部作」の完結編。『自分では気づかない、ココロの盲点』を含めて、著者の著作は、「難しいことはやさしく、やさしいことは深く、深いことはおもしろく」という井上ひさしの「著述の要諦」をすべて満たしているため、ベストセラーになる理由がよくわかる。しかし、「講義録」であるからには、書籍化にあたって、編集者の整理能力が十分に発揮されていると思う。ひとこと話題になった「マイケル・サンデルの白熱教室」より、はるかに！実のある「問答」が交わされている。		
	2024/6/13	学術文庫	2023/8/8
		遠野物語 全訳注	柳田國男 新谷尚紀訳
93	『遠野物語』は、宮廷官僚だった柳田が、民俗学の緒を開いたとされる著名な本だけに、座敷わらしや河童など、知っている話が多いかもしれない。しかし、全編読み通した人は案外少ないのではないかと。私も、オビにある「全部読まなければわからない！」という殺し文句に殺され、初めて読み通した。本書は、「訳文」、「原文」、「注釈」、そして、「付録」から構成されているが、「注釈」が、ただの注釈ではない。民俗学の第一人者（訳者）によるものだから、固有名詞の説明、時代背景、柳田の事績つまり民俗学の発展過程など、明解で濃やかな注釈になっている。		
	2024/6/13	学術文庫	2024/6/8
		妖怪学とは何か 井上円了精選	井上円了 菊地章大編・解説
94	井上円了は、「哲学館（現東洋大学）」を創設した一方で、「不思議研究会」を発足させ、迷信を徹底的に破壊しようと試みた。柳田の『遠野物語』は、佐々木喜善からの聞き書きだが、そもそも佐々木は東京に妖怪学を講義する偉い先生（井上）がいると聞いて、哲学館に入学している。ところが、妖怪などは迷信にすぎないという井上の講義に失望して、退学。そのあとに出会ったのが柳田なのだ。柳田と井上は、全国を歩き回って、「不思議話」を拾い集め、柳田は民俗学の貴重な資料として、井上は迷信を説き明かす材料として利用した。本書は、『遠野物語』の2カ月前に出版されているが、対照的な両書の読み比べをもくろんでいたとしたら、編集者の「企み」に拍手したい（実際はどうか？）。		
	2024/6/13	現代新書	20223/11/20
		老いと創造 藤籠人生相談	横尾忠則
95	自らをさらけ出し、理屈っぽくならず、上から目線にもならず、人生相談のお手本のような本。「異次元なのに胸に落ちる 唯一無二の人生相談」というオビのコピーに偽りは無い。表紙の写真もいい。		
	2024/6/13	講談社選書メテエ	2023/8/8
		<精神病>の発明 クレペリンの光と闇	渡辺哲夫
96	私はかつて、ダグラス・マッカーサーは精神を病んでいるのではないかと疑い、彼の「異常なエピソード」を拾い集めたことがある。そして、『DSM-IV』と『ICD-10』（精神病の二大診断マニュアル）を参照して、「演技性人格障害」であると勝手に判断した。本書の冒頭に「この二つのマニュアルはクレペリンの体系に依拠していた」と書かれていて、がぜん読む意欲がわいてきたのだ。フロイトは「無意識の発見者」として、クレペリンは「分裂病の発見者」として、精神医学にとってパラダイム・メーカー的存在なのだそう。しかし、両者の知名度と評価は違いすぎるほど違う。後者には「闇」の部分が多いからだ。それでも、著者は、クレペリンを否定せず、精神医学の歴史を辿りつつ、精神医学で患者を本当に救えるのか、真摯に自問しているように思えた。		
	2024/6/13	現代新書	2024/1/20
		世界は経営でできている	岩男俊兵
97	おもしろいタイトル立っているが、中身はそれほどでもない。実際、すべての営みは、文字通りに「経営」なのだ。ということで、読む人によっては、斬新な発想に見えるかもしれないが、私はそれほどの新鮮さは感じなかった。		
	2024/6/13	文芸書	2023/7/25
		天涯図書館	皆川博子
98			
	2024/6/13	学術文庫	2023/12/7
		読書国民の誕生	永嶺重敏

99			
100	2024/6/13	現代新書 あっぱれ！ 日本の新発明 世界を変えるイノベーション	2024/1/20 ブルーボックス探検隊／協力・産業技術総合研究所
101	2024/6/13	講談社選書メチエ 仏教の歴史 いかにして世界宗教となったか	2023/11/7 ジャン・ノエル・ロベール／今枝由郎訳
102	2024/6/13	学術文庫 インド思想史	2024/1/11 中村 元
103	2024/6/13	現代新書 人間非機械論 サイバネティクスが開く未来	2023/6/8 西田洋平
104	2024/6/13	現代新書 首都防衛	2023/8/20 宮地美陽子
105	2024/6/13	学術文庫 人間の条件	2023/3/7 ハンナ・アレント 牧野雅彦訳
	2024/6/13	文芸書 文学のエコロジー	2023/11/21 山本貴光

106				
107	2024/6/13	現代新書 ダーウィンの呪い	2023/11/20 千葉 聡	
108	2024/6/13	学芸書 スタンフォード大学 いのちと死の授業	2024/3/27 スティーヴン・マーフィー重松/坂井純子・麻晶里子訳	
109	2024/6/14	α新書 刑事捜査の最前線	発売日 2024/5/15 著者名 甲斐竜一朗	
				まるでちょっとしたサスペンス小説である。一気に読んでしまった。なぜ事件は解決するのか、しないのか。30年以上、事件の取材に携わってきた筆者が、現場の刑事たちの声をもとに、失敗も含めて赤裸々に綴る刑事捜査の最前線。面白くないはずがない！
110	2024/6/14	α新書 国民は知らない「食糧危機」と「財務省」の不適切な関係	発売日 2024/2/19 著者名 鈴木宣弘、森永卓郎	
				日本の食糧自給率はすでに危機的なレベルにあることは、知る人ぞ知るところであるが、私も含めて、どこか他人事のように捉えてはいないだろうか？ いま、世界情勢が緊迫している中で、また、地球温暖化や環境問題が深刻化する中で、もし輸入が停まったら……？ アメリカの言いなりになって日本の農業を壊滅に追い込みかねない国の農政の無策、財務省の悪辣。警告の書である。
111	2024/6/14	現代新書 資本主義の宿命 経済学は格差とどう向き合ってきたか	発売日 2024/5/20 著者名 橘木俊詔	
				富裕者をより富ませ、貧困者をより貧しくさせる今日の資本主義。経済学者たちは「富と貧困」の問題をいかに論じてきたのか。本書は、『日本の構造』（講談社現代新書）の著者が、経済学の歴史を踏まえて示す、貧困大国・日本への処方箋である。
112	2024/6/14	現代新書 体験格差	発売日 2024/4/20 著者名 今井悠介	
				私たちが暮らす日本社会には、さまざまなスポーツや文化的な活動、アクティビティなど、子供の成長に大きな影響を与え得る多種多様な「体験」を「したいと思えば自由にできる子どもたち」と「したいと思ってもできない子どもたち」がいる。そこには明らかに大きな「格差」がある。子どもたちから何が奪われているのか？ 本書は、これまで見過ごされてきた日本社会の課題に目を向け、「体験格差」の解消への道筋を示そうとするものである。
	2024/6/13	単行本 わが投資術 市場は誰に微笑むか	発売日 2023/3/1 著者名 清原達郎	

113	強烈な個性を持つ著者と、うまく伴走した編集力を感じる。野村證券、外資証券会社などを経て、自らの投資顧問会社を設立。小型株から比較的安い株価で低迷している会社を見つけ、辛抱強く長期保有する戦略で成功した具体例が色々あり、読み物としても面白い。欲をいえば、表紙の写真を、もう少し爽やか感のあるものにしてほしかった。しかし著者がガンのため声を失ってもう6年という事情も織り込み、ややもすれば荒涼感も出やすいこの手のテーマに、ドラマ性を与えて、巧みな編集になっている。	2024/6/13	文芸書 カフネ	発売日 著者名	2024/5/22 阿部暁子
114	ドラマ性をもたせにくいはずの、料理、調理の場面をふんだんに取り入れて、刺激的な小説を作っている。全体のテーマは、誰にも共通する「自分は誰かに必要とされる存在なのか」という不安感。ポルトガル語のカフネという謎めいたタイトルをめぐって、家事代行、兄弟愛、同性愛、家族という束縛などを、巧みな文章で展開している。このユニークな作品を作った作者をリードしたと思われる編集者の力も感じられる作品。	2024/6/19	学芸書 硫黄島上陸 友軍は地下に在り	発売日	2023/11/8 酒井聡平
115	この本を読めて良かったと思うと同時にぜひ読んでくださいと勧めたい。硫黄島には未だに10,000体近くの戦没者の遺体があるという。著者は北海道新聞の記者であるが、遺族の関係者として戦没者遺骨収集団にボランティアとして参加して、本書をまとめた。「硫黄島の兵士たちは今も地下にいて、本土からの迎えを待っているのだ」その想いで著者は硫黄島の土を掘り返したという。この本に書かれた収集作業、そして硫黄島の戦争の姿、戦後のアメリカ統治時の核配備、そして現在の自衛隊と米軍の訓練基地としての実態までリアルに描かれている。こういう気骨のあるジャーナリストがいることに驚かされる。すでに第11回山本美香記念国際ジャーナリスト賞を受賞しているが、ブック大賞に値する優れたできであり、推したい。編集は現代新書になっているが、本書の成立の過程を知りたいものだ。	2024/6/19	学芸書 2022年のモスクワで、反戦を訴える	発売日	2024/5/7 マリーナ・オフシャンニコワ 武隈喜一・片岡静訳
116	著者オフシャンニコワはロシアの元テレビ編集者である。2022年3月22日、ニュース報道中に「NO WAR」と書いた紙を掲げた。この衝撃的な映像は世界中に大きな反響を呼び起こした。この行動がどんなに勇気のあるものなのか。著者は現在のロシア国民が政権によって完全に抑圧されていることを、自らの行動によって明らかにし、世界に伝えた。気骨あるジャーナリストの存在は、プーチン政権の危険性を伝え、言論報道が統制されていった経過とその行くつく先がウクライナ侵略であることを教えてくれる。この本はロシアを知るために今読むべき第一級の資料でもある。彼女はバリエに滞在中だが、6月に体調不良となり、毒を盛られたという可能性もあり、捜査中であるという。この本に書かれていることは、現在進行中なのだ。無関心であることに甘んじてはならない。担当編集者の労を多としたい。	2024/6/20	学芸書 実用・エンタメ ミニシミテ	発売日	2024/3/10 田中泯
117	独自の舞踏スタイル、異色の世界的ダンサー、又俳優として存在感ある田中泯氏。自身が発する内なる言葉、それをオドルように文章として書きたいと新聞連載をもとに、10年かけて8章からなる、いろいろな事象、事柄に思いを巡らせつづられたエッセイ。深い思いがそして力が感じられる。	2024/6/20	α新書 うまく老いる 楽しげに90歳の壁を乗り越えるコツ	発売日	2024/1/16 樋口恵子 和田秀樹
118	91歳の樋口恵子さんと「80歳の壁」の著者、精神科医和田秀樹さんとの対談集。歯に衣着せぬ、お二人の語り合いの中から「幸齢者」になる為の道すじを示している。楽しく痛快。	2024/6/20	学芸書 60代、70代なら知っておく 血管と心臓を守る日常	発売日	2024/4/16 天野篤
119	上皇陛下の心臓手術の執刀医であり、日本の心臓血管外科医の第一人者である著者が60代70代なら知っておくべき「血管と心臓を守る日常」を具体的にわかりやすく、しかもコンパクトにまとめた自分の為になる書。	2024/6/23	現代新書 顔に取り憑かれた脳	発売日	2023/12/14 中野珠実

120				
	2024/6/23	現代新書	発売日	2024/2/22
		学び直し高校物理 挫折者のための超入門		田口善弘
121				
	2024/6/23	絵本（講談社の創作絵本）	発売日	2023/8/31
		ぎょうざが いなくなり さがしています		玉田美知子
122				
	2024/6/26	学芸書	発売日	2023/10/3
		続 窓際のトットちゃん	著者名	黒柳徹子
123		40年以上前に、大ベストセラーだった『窓際のトットちゃん』が、続編として刊行された。毎日のようにテレビ番組【徹子の部屋】でゲストと対峙する黒柳さんも御年91歳とか……。長い人生を、人にも、物にも、出来事にも、何事にも興味を持ち知ろうとする、ものすごいエネルギーの源がぎゅっと凝縮されていたように思う。「その後のトットちゃんをもう一度書いてみませんか」と提案して、忙しい黒柳さんに執筆してもらった編集者の企画力も凄い。		
	2024/6/26	文芸書	発売日	2023/7/10
		キッチン・セラピー	著者名	宇野 碧
124		「町田診療所」という不思議な空間で、町田さんに促され、自分が本当に食べたいものを素材集めから徹底して調理していくことで、抱えていた日常のモヤモヤから一気に解放されていく。何かに夢中になって行動することで、心の負担がどんどん軽くなる（癒されていく）物語の展開が不思議で面白かった。		
	2024/6/26	学芸書	発売日	2023/7/18
		講談放浪記	著者名	神田伯山
125		年を重ねるほどに落語、浪曲、文楽、講談……と、日本の伝統話芸が面白いと思えるようになってきた。チケットがなかなか取れない人気講師の神田伯山が本を執筆したと聞いて思わず読んでみたくなった1冊。実際、彼の語り口調を定席の小屋で聴いたりしたことがあるからなのか、講談の舞台を著者と一緒に歩きながら解説を聴いているような気分になった。		
	2024/6/26	現代新書	発売日	2023/9/20
		日本の歪み	著者名	養老孟子・茂木健一郎・東浩紀
126		鼎談をした三人の話にはそれぞれ説得力があって、まるでシンポジウムに参加しているような興味深さがあった。個々に、このようなテーマの本を上梓できる三人だと思うけれど、鼎談という手法でそれぞれの考え方を読みやすくまとめたのは評価できる。日本の歪みについて考えさせられた。		
	2024/6/26	学芸書	発売日	2024/1/11
		おれの歌を止めるな ジャニーズ問題とエンターテインメントの未来	著者名	松尾 潔

127	気鋭の音楽プロデューサーが音楽と、政治や社会との繋がりを独自の視点で語った単行本。このような視点であらゆる社会の問題点を語る？いや、見る？ことができるのかと、妙に腑に落ちた1冊。		
	2024/6/30	エッセイ・実用書 公式ガイド&レシピ きのう何食べた？ シロさんの簡単レシピ3	発売日 著者名
128	よしながふみさんのベストセラーコミックの映像化から派生したレシピ本。シリーズの1は2019年刊行。本書は3冊目ですでに3刷。帯には累計35万部と。レシピの他に映像関連の導入があって邪魔にも思えますが、いずれも美味しそう！映像化されたコミックは多いけれど、こうしたレシピ本という副産物で大人の読者を獲得する企画力を評価したい。		
	2024/6/30	エッセイ・実用書 心に効く美容	発売日 著者名
129	女優のMEGUMIによる美肌を追求することで自己肯定を高める実践論。化粧品や療法など多岐にわたっての情報とエッセイ、確かに美肌の著者自身の写真で構成されている。先行する他社刊の同様のベストセラーの第二弾になりますが、発売後一月で多分25万部という数字はすごい！		
	2024/6/30	現代新書 人はどう老いるのか	発売日 著者名
130	人生が終わりに近づいている昨今、今自分は幸せなのか、やってきたことに悔いはないのかなど、色々思うなかで本書の積極的な生き方の指南を読み、納得したり、反感を持ったり、結局人それぞれの生き方があることを知らされた。		
	2024/6/30	現代新書 職場を腐らせる人たち	発売日 著者名
131	「腐らせる人たち」の目線に立つ考え方、行動が多種に渡っていて解決は難しいと思いました。生まれも育ちも異なる他人の集まりである職場で集団行動は「相手の思いやり」も多少必要になるのでしょうか。		
	2024/6/30	現代新書 昭和の青春 日本を動かした世代の原動力	発売日 著者名
132			
	2024/6/30	講談社文庫 北緯43度のコールドケース	発売日 著者名
133			
	2024/6/30	講談社文庫 ある閉ざされた雪の山荘で	発売日 著者名

134				
135	2024/6/30	学芸書 窓ぎわのトットちゃん	発売日 著者名	2023/10/3 黒柳徹子
136	2024/6/30	ブルーボックス あっぱれ！ 日本の新発明 世界を変えるイノベーション	発売日 著者名	2024/1/20 ブルーボックス探検隊／協力・産業技術総合研究所
		巻頭にブルーボックス編集部が立ち上げた「産業技術総合研究所」を目にして、編集部が企画にかかわったことはブック大賞に推薦するにはふさわしい作品ではないかと思った。思えば技術立国日本に溺れて日本沈没が始まった。もう一度日本が世界に再浮上するには、この本で紹介されている画期的な発明、発見が必要である。「磁気冷凍」など魅力的な項目は一読に値する。		
137	2024/6/30	ブルーボックス 宇宙と物質の起源	発売日 著者名	2024/3/20 高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所
		「我々はどこから来たのか」「我々はなんでできているのか」を探求すると、宇宙の根源的なものに突き当たる。自然界の物質は周期律表の94種類の元素に集約されるが、これを発見されるまでの過程は本書の前半部分で分かりやすく解説されている。中盤以降は、正直言って自分の能力では理解不能でした。宇宙の現象は数式で表される事に驚く。この本ではないが、宇宙がブラックホールも宇宙の数式から予告されたという。好奇心だけで宇宙について知りたいと思っている者にとっては魅力あふれる本でした。		
138	2024/6/30	α新書 健康結果の読み方	発売日 著者名	2024/3/18 永田宏
		検診結果表の読み方を解説している本書は参考になります。特に血圧と血糖値。こんな企画を実現してくれた企画力にブック大賞の候補作に推薦したい。ただ、各数値表に75歳以上の数値があったら入れて欲しい。		
139	2024/6/30	ブルーボックス 古代世界の超技術	発売日 著者名	2023/12/20 志村史夫
140	2024/6/30	講談社選書メテエ 地中海世界の歴史① 神々のささやく世界	発売日 著者名	2024/4/9 本村凌二
	2024/7/2	現代新書 世界史に中の戦国大名	発売日 著者名	2023/10/20 鹿毛敏夫
	2024/7/2			

141	タイトルに惹かれて手に取ったが、期待通りの内容だった。近年注目されているグローバル歴史の観点から、最新の研究成果を基にして「戦国時代」の斬新なイメージを読み取る醍醐味があった。新書版ならではの面白さである。例えば、BVNGO（豊後）王、大友義鎮がザビエルと会見している場面を17世紀フランドルの画家ヴァン・ダイクが描いてる実物が本書に掲載されているが、なかなかのインパクトがあった。天下統一を果たした秀吉が何故に朝鮮まで侵略しようとしたのか、徳川時代の鎖国に至る背景は何だったのか、さらには幕末から明治にかけて西国大名の活躍の歴史的背景は何だったのか、いろいろ推理させるところが面白かった。	2024/7/2	ブルーバックス	発売日	2024/3/20
			サピエンス前史		土屋健
142	理系の本にあまり手を出さない自分にとって優しく読み解けるブルーバックスの存在は有難い。地球の将来が心配になってくると日常から離れて人類の存在を大きな視野で考えてみたくなってくる。本書に出会って良かった。冒頭部分に登場するサカナのイラストが印象的だ。この原始的なサカナに、ヒトへの進化に至る第一の特徴である「目」があるのだ。そこから70の特徴を獲得してホモ・サピエンスに至るのである。そういえば魚の目には何か親近感を抱かせるものがある。前向きに何でも見てやろうとする好奇心を共有しているのかも。ヒトが、進化の過程で多くの動物と枝分かれしてきた事実を知ると、地球における共生感と、同時に強烈な試練を与え続けてきた大自然にたいして謙虚にならざるを得なくなる。生きることへの元気をもたらしてくれる好著。				
		2024/7/2	現代新書	発売日	2023/9/20
			紫式部と藤原道長		倉本一宏
143	我々の日常とはやや距離を持って眺めていた1,000年前の平安時代。それを「物語り」という文学作品を通して様々な人の生き方や価値観を生き生きと伝えてくれるのが「源氏物語」という歴史的事実の存在。文献に裏付けられた事実を積み上げることによって浮かび上がる平安時代の人々の生き方と社会の仕組み等を検証可能な形で読者に提供してくれるのが本書である。この世界最高峰の文学作品がどのようにして生まれたのか、書き手、関わった人々、成立の事情と背景、読み手の受け取り方、などがとりあげられる。東アジア文化圏における漢詩文の世界に属しつつ、仮名の発明にもなって国風文化への分岐と発展、それを可能にした紙の存在など興味は尽きない。平安時代が意外と身近なものになった。				
		2024/7/2	文芸書 第二事業本部 mi-mollet事業部	発売日	2023/9/26
			なんかいやな感じ		武田砂鉄
144	私たちは誰もが時として説明は出来ないがどこか変な感じ、「なんかいやな感じ」に襲われることがあるのではなからうか。この本の著者武田砂鉄は幼いころから現在に至るまで、私たちの社会にはこのずっと「なんかいやな感じ」があるという。それも薄い膜のような「なんかいやな感じ」だという。この感じがなんなのか、著者は私たち読者の感じとはズレているかもしれないが、同時にそれがどこでつながっているかもしれないという。でも当然ながら人は誰もが同じように考えることはないし、ズレるし、ズレた状態のままにおかれる。つまり各自が考えてきたことの集まりが私たちの社会になるので、簡単に「今の社会」はと言っても共有は出来ないのである。いずれにしても、なぜ「なんかいやな感じ」なのか、なぜ「なんかいやな感じ」が続いているのかを考える自分を通して、人は初めて社会を感じるようになるというのだ。私たちが漠然と感じるこの不思議な「なんかいやな感じ」について著者ならではの独自の視点から考察した好著。				
		2024/7/2	α新書	発売日	2024/2/19
			国民は知らない「食料危機」と「財務省」の不適切な関係		森永卓郎、鈴木亘弘
145	我われ国民が毎日を生きるうえでなくてはならないのが食料である。その日本の食料がいま極めて危機的な状況にあるという。農業に従事している人の平均年齢は68歳を超えており、後継者問題を始め、農業は多くの分野で深刻な問題にさらされている。主食である米作りを始め、野菜作りや酪農経営等はますます難しい状況に追い込まれ、さらに輸入食品の増加、気候の温暖化や化学肥料の高額化、国策としての農地の集約化、大型化など、今までにない多くの問題が顕在化している。本書は経済アナリストの森永卓郎と、これまで日本の農業の問題点を追及してきた東大教授の鈴木亘弘が、現在の農業の実態と危機にある食料問題を明らかにし、その数々の問題が、いずれも財務省の政策と大きな関りがあることを教えてくれている。日本の食料問題を考えるための格好の優れた解説書と言えよう。				
		2024/7/12	講談社文庫	発売日	2023/4/14
			私は女になりたい		窪美澄
146	恋愛小説のジャンルに入る小説だと思うが、読者が私のような高齢者の場合は女性が主人公とはいえさまざまな局面から半生を描いた小説のように思えた。ストーリーの流れに不自然さはなく心地よい展開で話が進んでいく。今まで読んだことのない類の小説だったのでより印象に残った。				
		2024/7/12	モーニングコミックス	発売日	2023/10/23
			だんドーン1		泰三子（やすみこ）
147	警察官からコミック作家に転身したという異色の経歴をもつ泰三子の作品。最初の警視總監、川路利良を主役にした幕末から明治を描く。このところ歴史人物を題材にしたコミックが多いが、作家のキャリアがモチベーションとなって西郷隆盛など歴史の最前線にいた人物ではなく後方にいた準主役の人物に焦点を当てた視点が評価できる。				
		2024/7/12	ブルーバックス	発売日	2023/10/20
			生命の大進化40億年史新生代編		土屋健 群馬県立自然博物館監修

148	<p>いよいよ人類の登場。6600年前の恐竜の絶滅以降、哺乳類の進化を解説する。読後の単純な疑問。新生代はいつまで続きそして終わるのだろうか。おそらく今まで地球の歴史で何度かあったという小惑星の衝突で終わるのだろう。人類はこの最大の危機を乗り越えこの後に続く超新生代を生き抜くことができるのだろうか。地球以外の天体で超新生代が始まるのかもしれない。</p>		
149	2024/7/12	学芸書	発売日 2024/6/4
	「スティーブ・ジョブズ」翻訳者の仕事部屋 フリーランスが訳し、働き、食うための実務的アイデア		井口耕二